

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501574		
法人名	(株)厚生会		
事業所名	グループホームなのはな		
所在地	三重県津市柳山津興3306		
自己評価作成日	令和5年10月9日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2472900592-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2472900592-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和5年11月6日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に母体グループのクリニック、デイサービス、病院、有料老人ホームなどがあり、医療と介護、福祉が連携した中でそれぞれ交流を持ち利用者、家族様が健康面で安心して生活が来ている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同敷地内に協力医療機関と有料老人ホーム、デイサービスセンター等が併設し、2階に事業所が2ユニットある。医師とは24時間体制、看護師との連携もあり、緊急時の医療体制等もあり、安心して生活出来る環境にある。また「法人内外の研修を受ける機会も確保され、健康状態についてトータルのサポートが得られて学べる」と職員から前向きな声が聞けた。医療連携も充実して利用者の状態に合わせて理学療法士と連携し、日々の生活リハビリに取り組んでいる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内に掲示し、名札とともに携帯し、共有・実践につなげている。	開設以来の理念のもと、行動指針9か条を掲げ、利用者の人権と権利を尊重し、一人ひとりの想いに添う介護を実践している。特に優しい言葉掛けと利用者の思いを尊重し共に癒されるような関係作りに努めている。	開設以来の理念は簡単なようで難しい。職員が携帯し利用者が持つ力を大切にしながら介護実践しているが、時代の移り変わりと共に、職員の観念も移り変わりつつある。今一度理念を考察されたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域清掃への職員の参加や、外出・散歩時など交流の機会がある。	コロナ禍で地域との付き合いは少なかったが、近隣の清掃作業の付き合い等から基盤は出来ている。コロナウイルスが5類に移行した昨今は、リハビリの一環とした近隣の散歩などで日常的に挨拶を交わす交流は出来ている。津祭りには、獅子舞、しゃこ馬等が事業所を訪問され、感激で涙ぐまれる利用者もいた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議他への参加の声かけなどを通じて、認知症の人の理解や支援方法を伝える機会を広げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で開催して、現状報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナウイルス感染症も緩和の時期を迎え隔月で開催できた。コロナ禍での生活についての報告で、「室内レクリエーションをして、利用者が楽しんでいる様子や家族との良好な様子がわかり良い」と包括から評価を頂き貴重な意見交換が出来た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と連絡を取り、協力関係を築いている。	コロナ禍で電話で介護保険関係の事や運営について日常的な話し合いが多かった。運営推進会議に担当者が出席して運営について等、色々アドバイスを頂いたり、相談や意見交換など日頃から連携は図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内外の研修などを通じて理解をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年間研修計画で毎年「虐待防止関連法」を学んだり、「身体拘束防止について」研修会を開き学習している。「身体拘束適正化委員会」は3カ月に1回開催し事例検討会を実施。職員認識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などを通じて虐待防止関連法を学ぶ機会を持ち、見過ごされることのないように注意を払うとともに防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を設けて活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際し、利用者、家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議や面会時に意見や要望を表せる機会を設け、運営に反映させるよう取り組んでいる。	コロナ禍で面会制限もあり、電話で要望を聞くことが多かったが、家族には何でも話してもらえるような雰囲気作りを考えて実践している。毎月のたよりにレクリエーションの様子などを掲載し、家族から喜びの声が聞かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を通じ職員の意見・提案を聞き、運営に反映させている。	職員の意見聞き取りは様々な機会に行われている。毎月の職員会議や日常の業務の中で気楽に意見が言えるような環境である。また運営推進会議で意見や提案を述べる機会がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が向上心を持って働けるように、環境整備・条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保するとともに、働きながらトレーニングできるように取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナ禍以降、機会は若干減少したが、同業者との交流を通じたサービス向上の取り組みをしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること不安・要望に耳を傾け、安心してもらえるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていること、不安・要望に耳を傾け、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の際、必要としている支援を見極め、他サービスを含めた対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしをともにする者同士として、共同で取り組める作業等を提供する中で、その関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を取り合い、本人の状態などの情報を共有しながら、本人とともに支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日中の面会などを通じ、本人の大切にしてきた関係が途切れないように支援している。	コロナ禍で面会制限や外出制限をしていた為、馴染みの人や場との関係支援は、ほとんど出来なかった。コロナ禍も緩和の時期を迎えた昨今、面会に関しては、条件付きで面会の機会を作っている。利用者の希望で、馴染みの病院へ通院している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を把握するよう努めている。意思表示が困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者同士の話に、職員は耳を傾けて本人の想いを知るようにしている。その日の利用者の会話から希望や意向を把握するようにしている。聞き取った内容は、申し送りノートに記入し、全職員が、共有し支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境・サービス利用の経過を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な観察を通じて、一人ひとりの一日の過ごし方・心身の状態や能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議などを通じて、関係者との話し合いを持ち課題を共有して、意見・アイデアを活かし、現状に即した介護計画を作成している。	毎月の職員会議や日常の業務の中で援助内容や気分の変動などを話し合い、個別記録に日々の変化を記入する事で、日常の変化を見逃さないようにし、毎月モニタリング、3カ月に1回短期目標、長期目標を見直している。面会時や運営推進会議で聴取した家族の意見も反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入することで、日々の変化を見逃さないよう職員間で情報共有し、実践や計画見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況、その時々ニーズに対応し、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れや行事への参加などを通して、本人の力が発揮でき、豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望にそえるように、かかりつけ医と事業所の関係性を築き、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に本人と家族納得の上で協力医を主治医と決めている。主治医は、毎日事業所を訪問し利用者の様子確認をしている。24時間対応も可能である。歯科は協力医によるその都度の往診、他科は家族の協力を得ての受診である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の情報・気づきを看護職に伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時に備え、病院関係者と情報交換や相談ができる関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向け、本人・家族と話し合いを行い、事業所でできることを説明しながら方針を共有し、地域関係者とともにチームで支援に取り組んでいる。	契約時に「看取りに関する指針」の説明をしている。重度化した時には、関係者全員で「本人にとってどうすることが最良なのか。」を話し合い、看取り支援に取り組んでいるが提携病院に入院される方が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関とも協力して研修や訓練を定期的に行い、急変や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に関係機関と協力して災害避難訓練を行い、避難方法を身に付け、地域との協力関係を築いている。	地域住民の参加は難しい状況にあるが、系列の病院、有料老人ホームと共に、定期的に避難訓練を実施している。津波や水害時に、隣接する有料老人ホームの3階に利用者を避難させる事を決めて 避難誘導する訓練をした。備蓄は病院に保管され、自家発電機も設備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけ・対応に努めている。	ひとり一人の性格やプライドに配慮し、本人を傷つけない様に言葉掛けや対応に注意している。利用者の話をよく聞き話しながら「どうしてほしいのか？どう過ごしたいのか？」を利用者の立場に立った対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表せるよう配慮し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを大切に、どのように過ごしたいか、希望にそって支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の状況や力に応じ、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、できることを一緒に取り組んでもらえる支援を心がけている。	母体クリニックの管理栄養士と職員とで献立を考えて、食材購入から調理まで事業所でしている。誕生会には、利用者の希望や好みを尊重し楽しい食事会となるようにしている。配膳や玉ねぎの皮取り等、利用者が出来る範囲で行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた食事を提供するとともに、食事量・水分摂取量をチェックして、必要な支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態や力に応じた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や習慣を活かし、できるだけトイレでの自立した排泄が可能となるよう支援している。	利用者の3分の2は自立排泄で、入居時にオムツの方がリハビリパンツとパッド使用になった利用者が半数要る。排泄記録表で一人ひとりの排泄パターンを把握して利用者個々にあった支援を心がけて立位不安定な利用者もトイレでの排泄ができるようになった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・食事量の把握、運動への働きかけ等を通じ便秘予防に取り組んでいる。必要に応じて主治医へ報告し、医療面で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望にそえるよう配慮するとともに、安心安全に入浴が楽しめるような支援に努めている。	一人ひとりの生活リズムを配慮した上、週4回の入浴としている。個々の希望や要望を聞き入れて入浴が楽しくなるような支援を心がけている。事業所の個浴か併設事業所の大浴場か希望選択が出来、入浴を楽しんで気分転換が出来るように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣、時々状況に応じ、安心して休息し、睡眠が確保できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々の利用者の使用薬について理解し、正しい服薬支援と症状の変化の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的な手伝いやレクリエーションなどを通じて、個々の利用者がその力を活かし、張り合いや楽しみのある日々が過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩や買い物の他、状況によっては家族とも相談し一人ひとりの希望にそえるような支援に努めている。	コロナ禍で地域行事への参加や遠方への外出は出来なかったが、コロナ禍も緩和の時期を迎え、近くの笠松桜、お城公園への花見に出かけた。今後は医師の指示のもと、目的を持った外出支援も考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や状況・力に応じ、お金の所持や使用が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の状況に応じ、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	細やかな照明調整・空調管理に努め、季節感のある掲示物などを通して、居心地の良い、過ごしやすい共同空間づくりのための工夫をしている。	食堂兼居間は、採光もよく明るい。日中のほとんどの時間を思い思いに居間で過ごし、空調や換気も行き届き、利用者が安心して暮らせる工夫がされている。居室から分かりやすい動線は、戸惑いのない移動空間である。共用空間に置かれた水槽の金魚も利用者の癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のスペースを活用し、一人ひとりが思い思いに過ごすことができるような居場所づくりの工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談し、本人にとって居心地の良い居室となるよう工夫している。	ベッド、チェスト、布団等は事業所で準備している。その都度 利用者の様子を見ながら対応し、安心して生活が出来るような工夫がされている。換気も行き届き本人が馴染み易く、過ごし易い環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・風呂などに手すりを設置し、各種表示をするなど、安全に自立した生活が送れるような環境づくりに努めている。		